

どんなところ？ぼくのまち

No. 11 災害にそなえる(1)

—9月1日は「防災の日」—

大正12年(1923)9月1日 午前11時58分、

相模湾北西部の海底を震源として

関東南部を中心に、マグニチュード7.9、

最大震度7と思われる大きな地震がありました!



入間市立図書館
協力・入間市博物館
埼玉西部消防局



この地震は「関東大震災(関東大地震)」とよばれているもので、東京・神奈川を中心に大きな被害をだしました。

特に、お昼時でたくさんのお家で火を使っていたため、各地でいっせいに火事がおきました。

おりからの強風で火はもえひろがり、9月3日の朝まで各地でもえつつけました。

この火災が被害をより大きくしたのです。

「震度7」とは?

激震。たてものが30パーセント以上たおれる。

山くずれや地割れがおき、断層を生じる。

(「学校でやくだつ災害の本②」より)



(※震度階級は平成8年にかわっています。)

このような災害のおそろしさ
を忘れないようにと、昭和35
年、「関東大震災」のおきた9月
1日を「防災の日」とさだめまし
た。この日は、消火や避難の訓練
をおこなうなど、防災についてか
んがえる日となっています。

関東大震災!! そのとき入間の町や村では…?

埼玉県でも、現在の春日部市を中心とした県の東部で被害がでましたが、

県西部の被害は少なかったようです。

東金子村 … 住宅9戸と工場3棟が全壊

宮寺村 … 蔵など30棟が半壊・1棟全壊

豊岡町 … 1棟全壊・1棟半壊、負傷者一人

◆停電となり、鉄道・電話は不通、いろいろなデマもとんだという。

この地震の時、被害の少なかった東京周辺の地域では、災害のあった人たちに対して

いろいろな支援を行っています。入間の町や村でも次のような活動をしました。

○東京・横浜方面から入間へ避難してきた人たちのために、救護所をつくり、食糧や

救急薬品などを提供したり、義援金を渡したりした。

○災害にあった人たちのために、義援金や衣服などの寄付を集め、慰問袋(生活に必要な援助の品物を入れたもの。この時は手ぬぐい・半紙・えんぴつ・はがきなどを入れました。)

や、しょうゆやみそなどを東京に届けた。

「入間市史(通史編、近代Ⅱ・現代編)」「入間市のあゆみ」

埼玉県では、
死者341人、負傷者493人
全壊のたてもの9245件
半壊のたてもの7576件

その72年後…平成7年(1995)1月17日午前5時46分

『阪神・淡路大震災』(正式には『平成7年兵庫県南部地震』)おこる!

この時も全国各地からいろいろな支援がおこなわれました。

- ・他の自治体の警察官・消防隊・職員が応援に行った。
- ・各地からきたボランティアの人たちが、避難所の運営・炊き出し・医療介護・運送・物資のしわけなど、さまざまな活動をおこなった。(「消防白書」より)

入間市からは

- ・市民・市内団体より、義援金5590万円と救護物資(ダンボール箱約40箱分)を送った。
- ・市と市議会より義援金や自転車105台を送り、市の職員(のべ17人)を派遣した。

(「市報いるま」707号より)

マグニチュード
7.2

平成23年(2011)3月11日午後2時46分

『東日本大震災』(正式には「東北地方太平洋沖地震」)おこる!

この時も全国各地からいろいろな支援がおこなわれました。

- ・他の自治体の警察官・消防隊・職員が応援に行った。
- ・各地からきたボランティアの人たちが、避難所の運営・炊き出し・医療介護・運送・物資のしわけなど、さまざまな活動をおこなった。入間市は、市民・市内団体より平成25年9月30日までに預かった義援金3,590万円を送った。

マグニチュード
9.0

日本列島は、たいへん自然災害の多いところ。

- 環太平洋造山帯に位置する。⇒地震や津波、火山の噴火。
- 地形が災害をひきおこしやすい。⇒山地では山くずれや地すべり、川の下流域では洪水。
- 気候の変化が大きい。⇒梅雨や台風などによる水害・風害・がけくずれなどの災害にたび

たびみまわられてきました。

いろいろな災害にそなえて 入間市では…

- ① 消防署に専門の機器と職員をおいて、いざというときにそなえる。
- ② 各地区に消防団が組織され、いざというときにそなえる。
- ③ 町の人たちが地域ごとに「自主防災会」をつくり、いざというときにそなえる。



そして!

●ひとりひとりが、いざというときにそなえる。

- 災害がおきたら どうなるか、よく知っておく。
- 災害にそなえて 水や食料・日用品・防災用品などを用意したり、家具や火の元を安全にしておく。
- 災害がおきたときは、あわてず、適切な行動をとる。

<参考にした本>

- 「埼玉大百科事典」埼玉新聞社
- 「図説埼玉県の歴史」河出書房新社
- 「理科年表」「新工リア学習辞典⑤」
- 「学校でやくだつ災害の本②」
- 「入間市のあゆみ」「入間のよもやまばなし」
- 「入間市史(通史編)・(近代Ⅱ現代編)」
- 「入間市防災マップ」「いるまにあ」
- 「市報いるま 707・738・772号」



- 豊岡地区
- ① 豊岡小学校
 - ② 豊岡高校
 - ③ 入間向陽高校
 - ④ 豊岡中学校
 - ⑤ 東町公民館
 - ⑥ 富士見公園
 - ⑦ 東町小学校
 - ⑧ 東町中学校
 - ⑨ 高倉公民館
 - ⑩ 高倉小学校
 - ⑪ 市民会館
 - ⑫ 扇町屋公民館
 - ⑬ 扇小学校
 - ⑭ 向原中学校
 - ⑮ 久保稻荷公民館
 - ⑯ 黒須公民館
 - ⑰ 黒須小学校
 - ⑱ 黒須中学校
 - ⑲ 武道館
 - ⑳ 黒須地区体育館
 - ㉑ 彩の森入間公園
 - ㉒ 産業文化センター
 - ㉓ 市民体育館
 - ㉔ 運動公園
 - ㉕ 中央公園

- 東金子地区
- ㉖ 東金子公民館
 - ㉗ 東金子小学校
 - ㉘ 新久小学校
 - ㉙ 東金子中学校
 - ㉚ 東金子地区体育館
 - ㉛ 青少年活動センター
 - ㉜ 旧入間高校
- 金子地区
- ㉝ 金子公民館
 - ㉞ 金子小学校
 - ㉟ 金子中学校
 - ㊱ 農村環境改善センター
 - ㊲ 茶業研究所

- 宮寺・二本木地区
- ㊳ 宮寺公民館
 - ㊴ 宮寺小学校
 - ㊵ 宮寺地区体育館
 - ㊶ 武蔵中学校
 - ㊷ やまゆり荘
 - ㊸ 勤労福祉センター
 - ㊹ 二本木公民館
 - ㊺ 狭山小学校

- 藤沢地区
- ㊻ 藤沢公民館
 - ㊼ 藤沢小学校
 - ㊽ 藤沢南小学校
 - ㊾ 上藤沢中学校
 - ㊿ 藤沢東小学校
 - ㋀ 東藤沢公民館
 - ㋁ 藤沢中学校
 - ㋂ 藤沢北小学校
 - ㋃ 藤の台公民館
 - ㋄ 藤沢地区体育館
 - ㋅ 藤沢中央公園

- 西武地区
- ㋆ 西武公民館
 - ㋇ 仏子小学校
 - ㋈ 西武中学校
 - ㋉ 西武小学校
 - ㋊ 新光中央公園
 - ㋋ 野田中学校
 - ㋌ 西武地区体育館
 - ㋍ 西武市民運動場

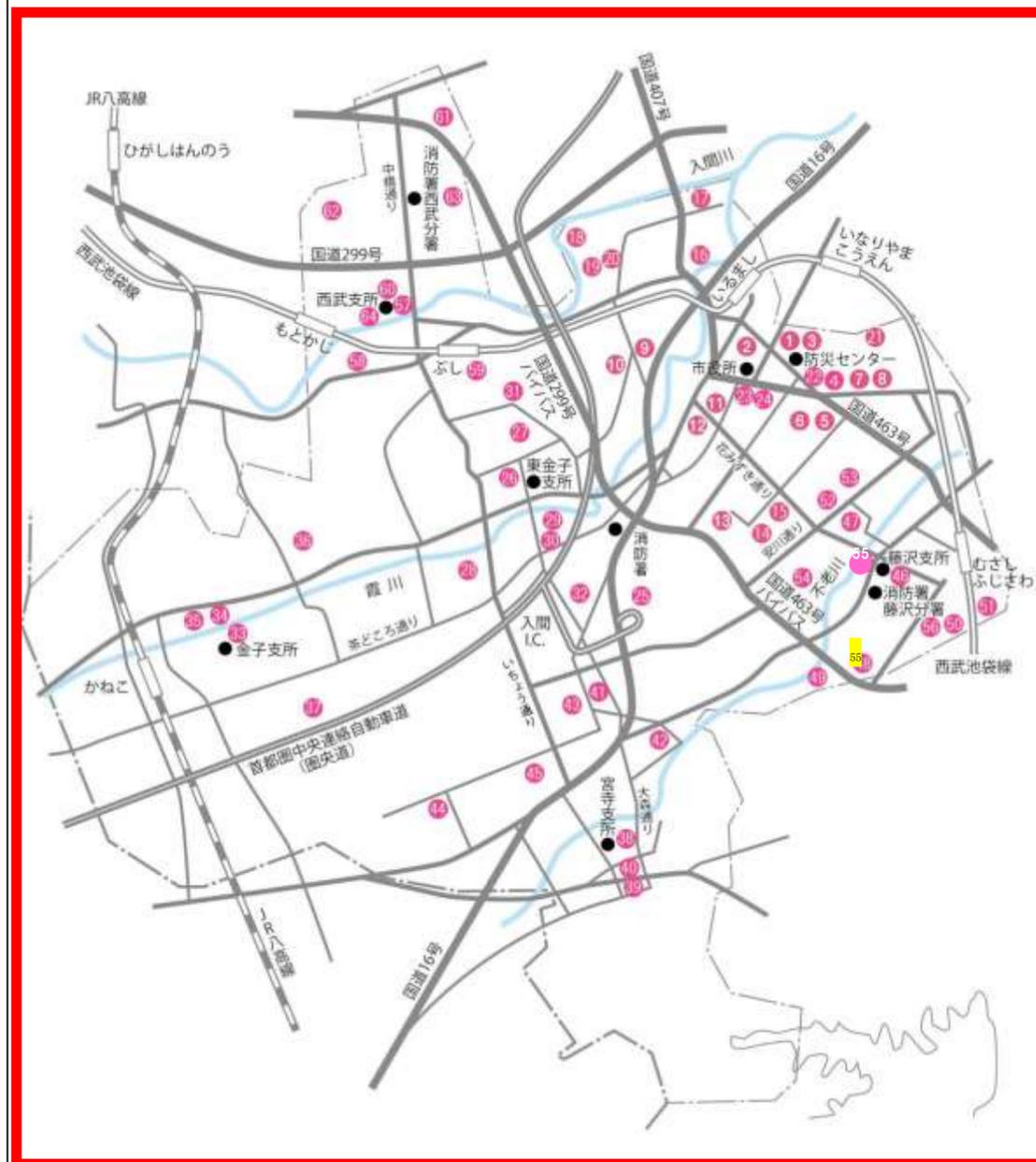
「自主防災会」とは?

大きな災害がおきたときには、救援活動がすべての地域ですぐにできるとはかぎりません。

そんなときに「近所の人どうしてたすけあおう」と、平成元年度から地区や自治会ごとにつくられました。

- 入間は防災計画をたてたり、訓練をして、災害にそなえる。
- 災害の時には、初期消火・けが人の救護などをして、被害が大きくなるようにする。
- 災害のあと、復旧作業をしたり助けあって生活する。

※自主防災会は 自分たちが住んでいる地域での活動なので、その地域の事情にくわしく、より状況に応じた活動ができます。





どんなところ？ぼくのまち

No. 12 災害に備える(2)

防災の歴史①「火消し」から「消防団」へ

いるましりつとしょかん
—入間市立図書館—
きょうりよく いるまはくぶつかん
協力・入間市博物館
さいたませいふしやうほうきよく
埼玉西部消防局

「いざ災害！」というときに、普通の人ではできないこともある。

そんなときに専門的な知識や技術・装備を持って私たちを守ってくれるのが、消防署や消防団の人たち…。

そんな消防制度の始まりを、『花のお江戸』に訪ねます。



江戸時代(1603~1867)

『火消し』の時代

江戸はたいへん火事の多い町でした。

当時の建物は木材と紙が多く使われていて、一度

火が付くと燃え広がりやすく大火となりました。

江戸幕府は、社会を安定させ、幕府の政権を

しっかりとしたものとするためにも、火災対策が

重要であると考え、つくられたものが『火消し』

の制度です。



江戸の三大火

●明暦の大火(振袖火事)

明暦3年(1657)

死者10万7000人という。

●目黒行人坂の火事

明和9年(1772)

死者1万5000人という。

●丙寅の火事 文化3年(1806)

死者1200人という。

江戸は火事の多い町で、江戸時代

約260年間に、歴史に残る

大火が86回もありました。

火事とけんかは江戸の華！

「日本史辞典」(角川書店)「国史大辞典」(吉川弘文館)「江戸の町」(内藤昌著・草思社)「災害の歴史をしらべる」(小峰書店)「まとい」(入間市消防団第3分団第2部 編/刊)「写真図説 日本消防史」(数内喜一郎監・国書刊行会)「消防制度の沿革」(石井隆著・葵出版社)「入間市史調査集録⑦」
「入間市のあゆみ」「市報いるま 429・717・732号」

1658年(万治元年)
『定火消し』がつくられる。



1718年(享保3年)
『町火消し』がつくられる。

明治時代以降
①『消防組』の時代
(1868年より)

明治維新により、新しい政府ができると、『火消し』の制度も変わりました。
「定火消し」→廃止
「町火消し」→新しく「消防組」に編成しなおされる。

●ヨーロッパ各国の消防制度を手本として
消防の近代化が図られました。

江戸時代の「龍吐水」から
→「腕用ポンプ」(手押しポンプ)→「蒸気ポンプ」へ
消火力があがり、それまでの「破壊消火」から
現在のような「注水消火」の時代へと入ります。



大正7年ごろ購入されたもののがつです。
みやでら しょうほうくみ つか
宮寺の消防組で使われていた
てお しょう しょう
手押しポンプ(「市報いるま 429号」より)

「明暦の大火」の翌年、旗本に命じて、新たににつくられたもの。各組に火消屋敷が与えられ、火事に備えて、そこにいつも定火消しが詰めていることとなりました。

【24時間体制の職業としての消防隊】
今でいう「消防署」

発展していく江戸の町を守るためには、これだけでは不十分だったので、町奉行大岡越前守は町人を組織して「町火消し」をつくり、町を自分たちの手で守らせることとしました。

後に、地区ごとに「いろは48組・本所深川16組」計64組に編成されます。【大工やとび職など、町の有志が火事が起きると消火にあたる消防隊】
今でいう「消防団」

このころの消火作業は破壊消火。
風向きや火の勢い、家なみの状況から判断して、回りの家を取り壊し、火が燃え広がるのを防ぎました。

明治27年(1894)、全国の市町村に『消防組』を置くこととされ、入間市域の7町村にもそれぞれ正式な『消防組』がつけられました。

「消防組規則」
公布による

豊岡町・藤沢村・宮寺村・
元狭山村・東金子村・
金子村・元加治村の7つ

府県知事によって設置され、警察の監督を受ける。
⇒警察消防制
消防組の費用は各市町村で負担する。

それまでの義勇消防(町の人たちが自発的に組織したもの)に、公的な性格が与えられました。

【これ以前にも、寺竹に「て組」西三ツ木に「み組」上谷ヶ貫に「や組」といった消防組織があったと伝えられている。】

☆これにより、消防制度の基準が全国的に統一され、現在の消防機関の基礎となりました。

◎ 日本・消防 初めて 物語

明治以後、消防の機械・技術はどんどん進歩していきます。

- 最初に消火栓がつけられたのは… 明治20年(1887) 横浜市で。
- はしご車が初めて使われたのは… 明治36年(1903) 2頭の馬で引いていました。
- 消防ポンプ自動車(消防ポンプ自動車)が初めて使われたのは… 大正3年(1914)
- はしご自動車(はしご自動車)が初めて使われたのは… 大正10年(1921) 25mのはしごでした。
- 火災専用電話(火災専用電話)が「119番」になったのは… 昭和2年(1927)
- 救急業務(救急業務) (けが人・病人を病院へ運ぶ仕事) を始めたのは… 昭和8年横浜市で。

② 「警防団」の時代 (1939年より)

昭和14年(1939)、各市町村に『警防団』を置くこととされる。(「警防団令」の公布による。)

これにより、入間市域の町や村にあった「消防組」は、組織を改めて、「警防団」となりました。

※昭和12年より戦争の始まるなか、「警防団令」には警防団の仕事の一つとして「防空」(国土を守り、空襲に備えること)が挙げられています。(防空消防時代)

昭和19年以後、空襲警報が出ると、それが解除されるまで、団員は車庫で待機することとなりました。

米軍機に撃墜された飛行機が、下谷ヶ貫に墜落し、警防団が消火にあたったことが「まとい」という本にのっています。

入間市における、昔の消防活動のようすがよく分かる本です。

③ 「消防団」の時代 (1947年～現在)

「消防団令」の公布による。

昭和20年に戦争が終わると、戦時体制のためにつくられた警防団は「消防団」へと組織が改められました。また「消防組組織法」により、消防の仕事は警察から市町村へと移されて現在にいたります。自治体消防制

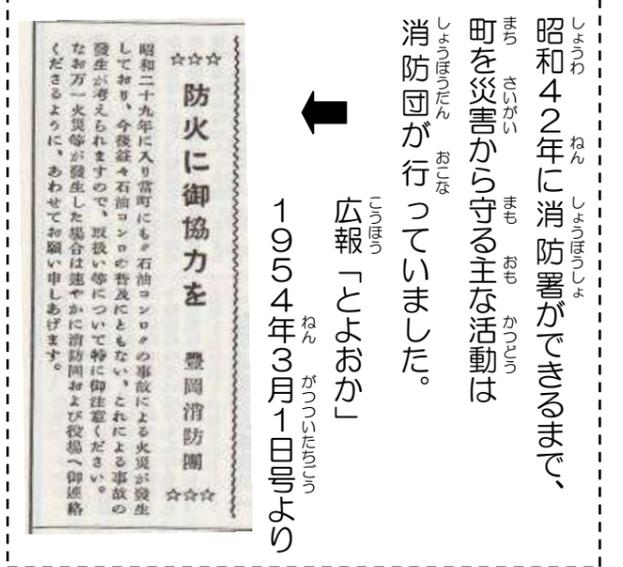
『消防団』とは？

- 「自分たちの町を自分たちの手で守る」ためにつくられた町の人たちによる防災組織です。
- 普段はそれぞれの仕事を持ちながら、火事などの災害が起きたときに消火などの防災活動を行います。(非常備消防)

その後、武蔵町成立(1956年)、入間市制施行(1966年)、西武町の合併(1967年)により、各町村の消防団が統合され、現在は「入間市消防団」となっています。

- 第1分団(4部) 豊岡地区
- 第2分団(4部) 東金子地区
- 第3分団(3部) 金子地区
- 第4分団(4部) 宮寺地区
- 第5分団(3部) 藤沢地区
- 第6分団(1部) 二本木地区
- 第7分団(3部) 西武地区

【()内の部に分かれています】





どんなところ？ぼくのまち

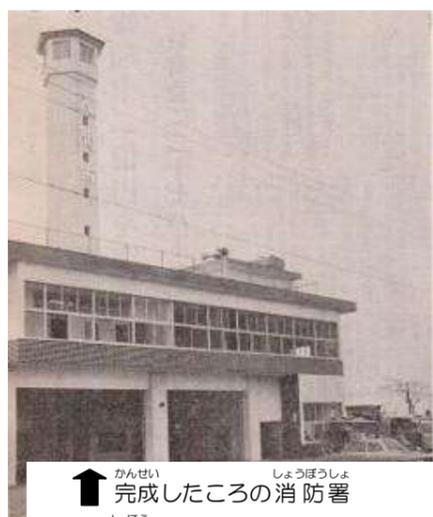
No. 13 災害に備える (3)

防災の歴史②消防署ができた

いるましりつとしょかん
—入間市立図書館—
きょうりょく いるまはくぶつかん
協力・入間市博物館
さいたませいふしやうほうきょく
埼玉西部消防局

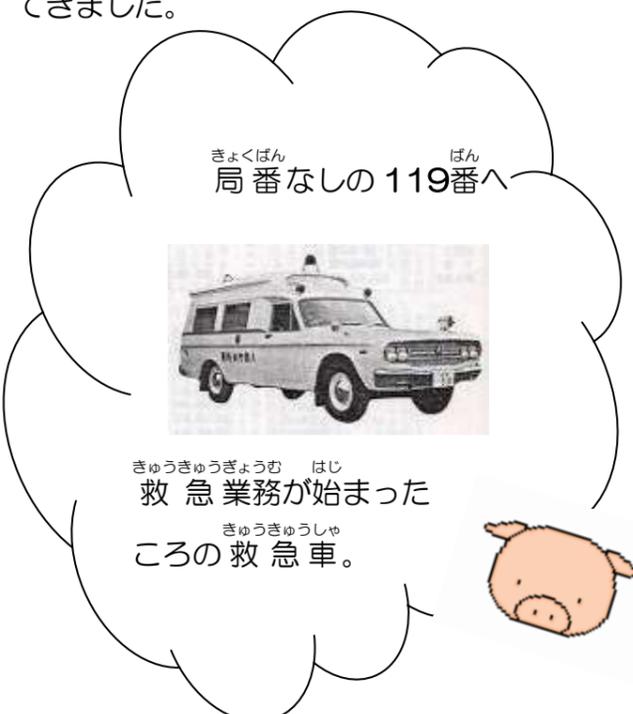


「消防組」→「警防団」→「消防団」と、町の人たちの手で守られてきた入間市域の町でしたが、常設の消防組織として消防署がつくられることとなりました。



↑ 完成したころの消防署
(市報いるま No.117 より)

◎昭和42年(1967)4月1日
小谷田(現在の場所)に消防庁舎が完成。職員22人と消防車両2台という体制で、入間市消防本部と消防署の仕事が始まりました。また、消防団の本部もここに移転できました。



局番なしの119番へ



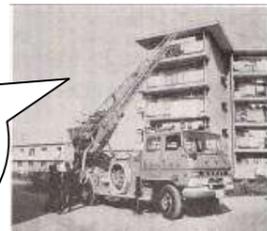
救急業務が始まったころの救急車。

(市報いるま No.123より)

◎9月1日 救急車が配備され、救急業務(けが人や急病人を病院へ運ぶ仕事)が始まる。
◎昭和46年(1971)7月1日 救急車のサイレンが、電子サイレン(「ピーポーピーポー…」)となる。

消防車のサイレンと間違えやすいこと、また、ソフトな音色の方がよいから、という理由で変わりました。

◎昭和46年(1971)11月 はしごつき消防ポンプ自動車(はしごつきしょうぼうじどうしゃ)が配備される。
◎昭和50年(1975)1月 さまざまな災害に対応するため、救助工作車(きゅうじうこうさくしや)が配備される。
◎昭和61年(1986)4月 藤沢分署(ふじさわぶんしよ)ができる。
◎昭和63年(1988)4月 西武分署(せいぶぶんしよ)ができる。



はしごの長さは、25メートル

40メートルのはしごで14階ぐらいまで届きます。

(市報いるま No.185より)

◎平成4年(1992)2月 消防ポンプ自動車(しょうぼうじどうしゃ)が本署に配備される。
◎平成7年(1995)3月 高規格救急車(こうきかくきゅうきゅうしや)が本署に配備される。
◎平成9年(1997)3月 西武分署(せいぶぶんしよ)に高規格救急車(こうきかくきゅうきゅうしや)が配備される。
消防サイレン遠隔吹鳴装置(しょうぼうさいれんえんかくすいめいそうち)が配備される



(市報いるま No.707より)

災害(さいがい)が起きたときに、本署(ほんしよ)で操作(そうさ)して市内(しんない)の分署(ぶんしよ)や22か所(しよ)の消防団(しょうぼうだん)車庫(しやこ)のサイレン(さいれん)を鳴らす(な)しくみ。

救急隊員(きゅうきゅうたいいん)が応急活動(おうきゅうかつどう)できるように、広く(ひろ)つくられていて、そのための器材(きざい)も備えて(そな)えてある。

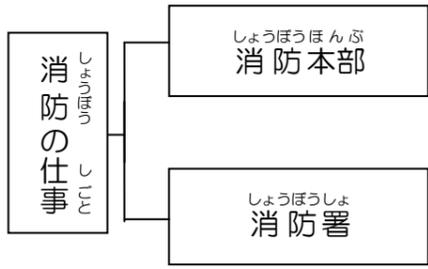
震度(しんど)1~7の地震(じしん)をじっさい(じっさい)に体験(たいけん)できます!

◎平成10年(1998)2月 起震車(きしんしや)「なます号(ごう)」が配備される。
◎平成25年(2013)4月 所沢市(ところざわし)・飯能市(はんのうし)・狭山市(さやまし)・入間市(いるまし)・日高市(ひだかし)の消防署(しょうぼうしよ)が一緒(いっしょ)になり、埼玉西部消防局(さいたませいふしやうほうきょく)になりました。

●構成市(こうせいし)の人口(じんこう)、世帯(せたい)及び面積(めんせき) 平成25年(へいせい)現在(げんざい)

	人口(人)	世帯数(世帯)	面積(k㎡)
所沢市	343,334人	150,510世帯	71.99 k㎡
飯能市	81,520人	33,218世帯	193.18 k㎡
狭山市	155,074人	65,541世帯	49.04 k㎡
入間市	150,243人	61,539世帯	44.74 k㎡
日高市	57,552人	22,896世帯	47.48 k㎡
合計	787,723人	333,704世帯	406.43 k㎡





市町村などの自治体に置かれ、消防に関する仕事の運営や管理、火事の予防などの活動を行う。

消火・救助・救急などの消防活動のほか、防火や救命のための訓練の指導などを行う。

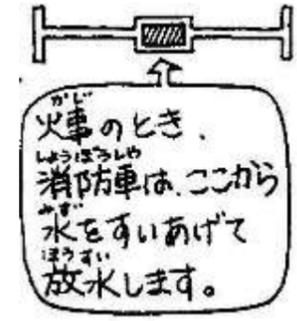


◎ 普段の仕事

- いざというときのために、機械の点検・訓練・体操などをして備える。
- 町の消化施設を点検をする。
- 町の人たちに消火訓練や避難訓練、救命講習などの指導をする。
- 町の建物や施設が、防災のうえで安全に保たれているかチェックや指導をする。
- 防災についての広報活動をする。…など。

さいたませいふしやうぼうきよく しょうぼうしよ ぶんしよ 埼玉西部消防局の消防署・分署

道路で見かける、こんな形のオレンジ色のライン、この真ん中の所が「消火栓」です。入間市内には約2,074か所あります。
(平成10年4月現在)



消火栓に車を止められると、いざ!というときに困ります。みんなで注意しましょう!

◎ 119番通報があったときの仕事

① 通信指令係

119番の知らせは、ここで受けます。災害の種類や場所を聞いて、それに応じた出動指令を出します。また、警察や病院、ガスや電力の会社などに連絡します。
(平成10年3月コンピュータ化されました。)

② 消防係

出動の指令が出ると、防火服を着て、火災の現場で消火活動にあたります。(消火活動の放水は水の勢いが強いのでぐらつかないように正しい姿勢で構えます。)

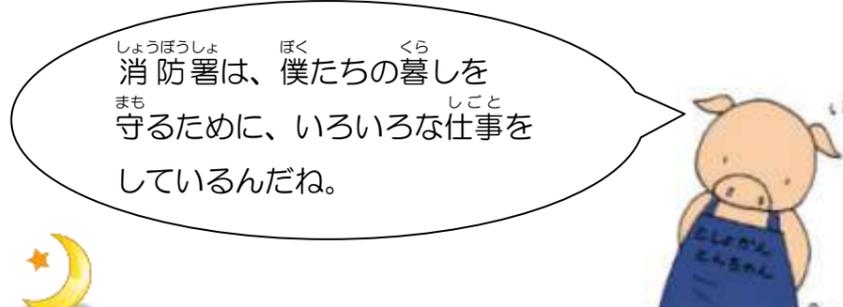
③ 救急係

救急車でけが人・急病人のいる所に向かい、無線で指示された病院まで運びます。平成3年の救急救命士法により、高度な手当ができるようになりました。(消防署のなかで一番出番の多い仕事です)

④ 救助係

火事や交通事故、その他さまざまな事故のときに、人命救助の仕事を行います。特別な訓練を受けている人たちが救助のための器材を載せた救助工作車やはしご車で出動します。(制服も防火服もオレンジ色です。)

119番の通報は、いつくるかわかりません。そのため消防署では、24時間いつでも①~④の仕事ができるように、職員が交替で働いています。



はんのう ひ だかしょうぼうしよ 飯能日高消防署
いなりぶんしよ 稻荷分署
なぐりぶんしよ 名栗分署
あがのぶんしよ 吾野分署
ひたかぶんしよ 日高分署
たかはぎぶんしよ 高萩分署

どんなところ？ぼくのまち

No. 14 いるまのいじん

—いしかわいくたろう いしかわぐみせいし —石川幾太郎と石川組製糸—



いるましりつとしょかん
—入間市立図書館—
きょうりよく いしかわけ ひとひと よ かい
協 力 ・「石川家の人々」を読む会

1. 石川幾太郎

いしかわいくたろう え とじだい すえ ねん くろすむら げんざい いるまし
石川幾太郎は江戸時代も末の1855年に黒須村（現在の入間市
くろす きんえもん ちょうなん う ごお
黒須）に金右衛門・だいの長男として生まれました。その後多くの
おとうと いもうと う いしかわけ にんきょうだい
弟 や 妹 が生まれ、石川家は8人兄弟となりました。

ひき へいりーの率いるアメリカ軍艦（「黒船」と呼ばれました）の来航
によって幕府の治める日本はとても混乱していました。

ばくふ おさ にほん こんらん
幕府は230年以上続いた鎖国（外国との行き来や商売をしない）

せいさく あらた がいこく ぼうえき かいし
政策を改め外国との貿易を開始しました。



いしかわいくたろう
△石川幾太郎

このことをめぐり薩摩（現在の鹿児島県）や長州（山口県）等の大きな大名と幕府が対立し、
ぼうえき かいし こめ ね あ ます のうみん ふまん たか ちほう ぶしゅうよなお いっき
貿易の開始による米の値上がりで貧しい農民の不満が高まり、この地方でも「武州世直し一揆」と
よ 呼ばれる 打ちこわしがお 起きました。

のうみん しょくにん しょうにん なか ます ひとびと ゆた ひとびと かくさ おこ
農民や職人・商人たちの中での貧しい人々と豊かな人々との格差に怒
った人々が豊かな大地主や商人たちの店や自宅をおそい、建物等をこ
わした一揆。
ひと きす おの など ぶき とくしょく
人を傷つけることがないよう斧やのこぎり等を武器としたのが特色。

めいじじだい はい おく ちゃ さいばい しょうばい の
明治時代に入り、やや遅れて茶の栽培や商売に乗り

だ いくたろう *にほん ちゃ しんよう お
出した幾太郎は日本茶の信用が落ちたことによって

ほっかいどういみん かんが そんしつ だ
「北海道移民を考える」ほどの損失を出しますが、

た なお めいじ ねん とよおかまちくろす ち
立ち直り1893（明治26）年には豊岡町黒須の地

てさぎょう せいしぎょう かいこ まゆ きぬおりもの げんりょう
で手作業による製糸業（蚕の繭から絹織物の原料と

なる生糸を作る工業）を始めました。しかし、あまり

りえき で はや よく めいじ ねん
利益は出なかったため早くも翌94（明治27）年に

きかい こうじょう てんかん はいぎょう こうじょう
は器械による工場に転換しました。廃業した工場の

きかい やす う むり けいらい
器械を安くゆすり受けて、無理をせずに経営にあたった

ようです。

かいぎょう じっせき しんよう もっと くろす はたら わか むすめ あつ
開業したばかりで実績も信用もなかったため、最も苦労したのは働く若い娘さんたちを集

めることでした。途方に暮れていた募集人さんたちを泊めてくれた勝沼（山梨県）の農家の娘さ

んたちを雇えたことからだんだんと信用が付き、その縁で石川組製糸の豊岡・川越・入間川等の

こうじょう まいとしおお こうじょう やまなしけんない はたら
工場には毎年多くの工女さんが山梨県内から働きにくるようになりました。

ちゅう めいじ ねんだい はい ちゃば なか せんりょう みどりいろ そ にせもの は まま う ぎょうしゃ
*注：明治10年代に入って茶葉の中に染料で緑色に染めたニセモノの葉を混ぜて売った業者

で せかいじゅう ふばいりゅうどう ぎかい ゆにゅうきんしけつぎ ひろ にほんさんちゃば きゅう う
が出たため、世界中で不買運動や議会による輸入禁止決議が広がり、日本産茶葉は急に売れなく

なっていました。

2. 石川組製糸の工場は豊岡町から国内各地へ

きかい かい いしかわぐみせいし うつく きぬおりもの もと ゆしゅつ こうちょう
器械化された石川組製糸は、美しい絹織物を求めるヨーロッパやアメリカへの輸出が好調で、

じゅんちょう はってん つづ
順調に発展を続けました。

その後、1902（明治35）年から1916（大正5）年にかけて幾太郎は弟妹たちの力を

か つぎつぎ こうじょう ふ とよおかまかぎやま だい こうじょう かわごえまち だい こうじょう いるまがまち
借りて次々に工場を増やしていきました。豊岡町鎌山（第2工場）、川越町（第3工場）、入間川町

だい こうじょう とよおかまかおうぎまちや だい こうじょう つぎつぎ かいぎょう いしかわせいし おお
（第4工場）、豊岡町扇町屋（第5工場）を次々に開業したのです。こうして石川製糸は多く



石川組製糸 本工場
現在の豊岡町鎌山付近に撮影

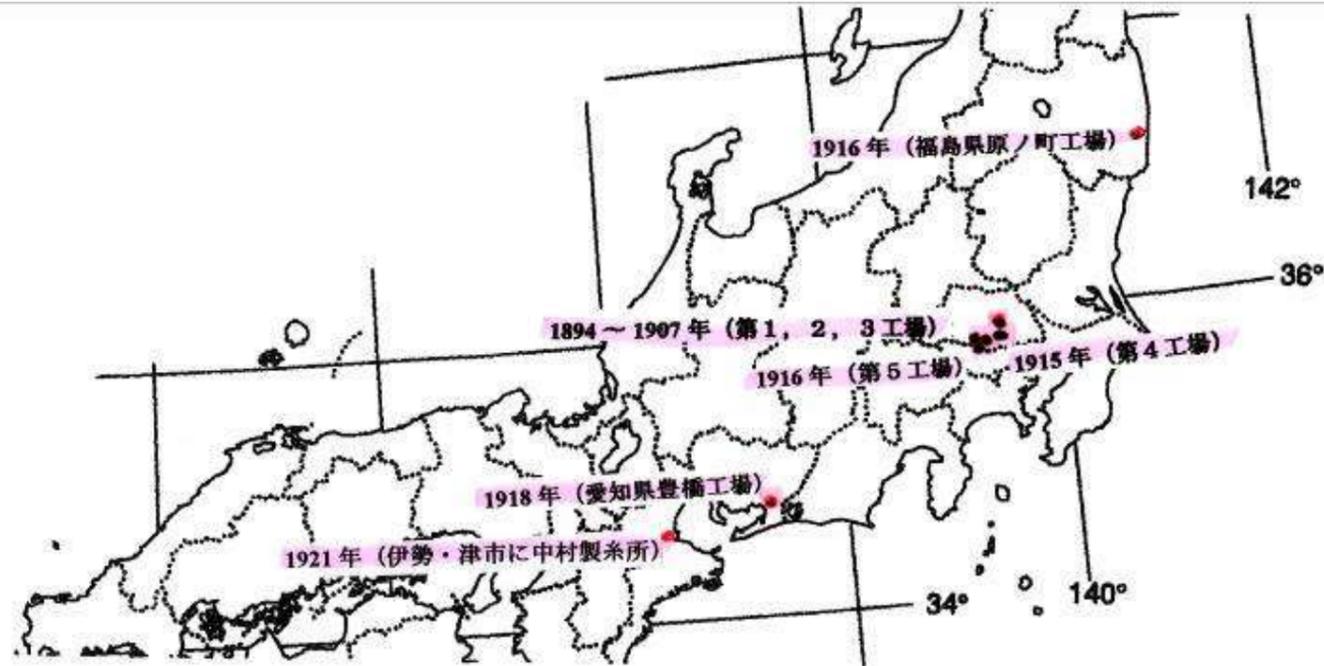
いしかわぐみせいしほんてんこうじょう くろす
△石川組製糸本店工場（黒須）

げんざい くろすだんち
（現在は黒須団地になっています）

の生糸を生産して輸出することで国の近代化に必要なお金をかせいだため、1912（大正元）年には天皇の使者がげきれいのため第3工場を訪れています。

その後も石川組製糸は工場や設備を増やして生産を拡大しました。現在の福島県南相馬市、

愛知県、三重県津市を合わせて石川組製糸の工場は8カ所にもなりました。



△各地に広がった石川組製糸の工場

3. 工女たちの労働と生活、地域に広がるキリスト教信仰

石川幾太郎の一族は幾太郎の弟和助（三男）の影響で製糸業を始める前からキリスト教を深く信仰していました。和助は「石川家家憲・家訓」を作って労働者を家族のようにあつかうよう説いていましたから、石川組製糸では工場で働く工女たちを大切にしました。



△デンマーク体操の授業（夜学）

貧しい生活に慣れた農家出身の工女たちには日10～11時間もの工場の労働があまり辛く感じなかったのかもしれませんが。本店工場（黒須）の食堂ではカレーライス等当時の多くの農家では食べたことのないものまで出ました。

工女たちのためには夜学も開設されていました。

石川組製糸では工女たちはキリスト教信仰を強制されはしませんでした。讃美歌を歌うことは好きだったようです。

教会の近くには石川組製糸によって建てられた西洋館が今も美しい姿で建っています。

西洋館も武蔵豊岡教会（1923年完成）と同じ頃からすでに90年以上も私たち入間市民を見守り続けているのです。

※注：当時の法律で決められた労働時間。石川組製糸では月2回の休日が認められていた。



△武蔵豊岡協会



△西洋館

※現在入間市では茶畑が広がっていますが、大正12年頃の地図を見ると、茶畑より圧倒的に桑畑の面積が広いことがわかります。蚕（生糸を紡ぐための繭を作る昆虫）の餌は桑の葉であるため、入間市ではたくさんの桑畑がありました。入間市で茶畑の面積が大きく増えるのは戦後（昭和20年）からです。

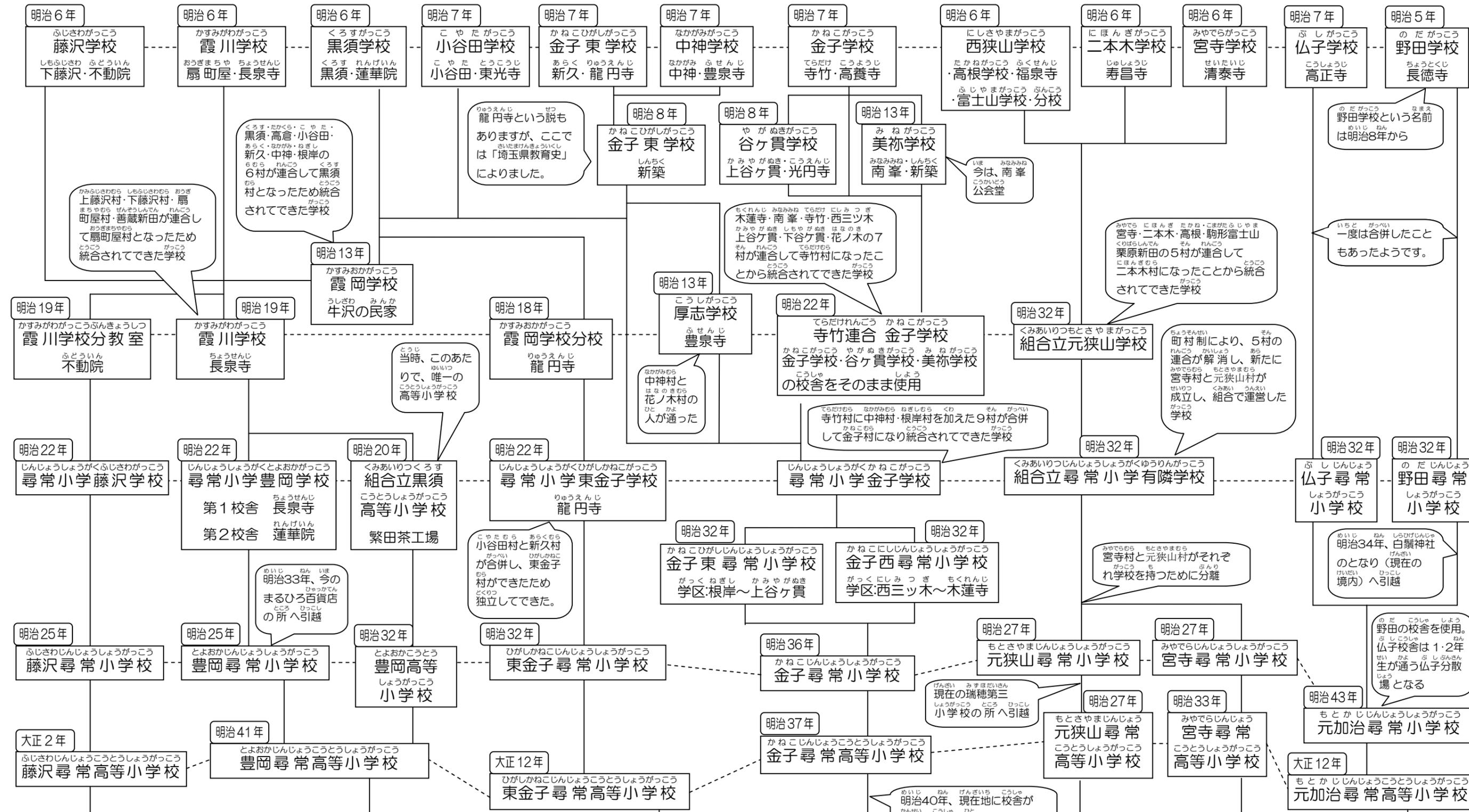


どんなところ？ぼくのまち

※明治時代中頃のことについては、資料が少なく、不明確な部分もあります。
参考資料は、No.16にまとめました。

No. 15 入間市の学校（1）－小学校・中学校の移り変わり－

上藤沢村 下藤沢村 善蔵新田 扇町屋村 高倉村 黒須村 小谷田村 新久村 根岸村 中神村 花ノ木村 上谷ヶ貫村 寺竹村 木蓮寺村 (瑞穂町) 二本木村 宮寺村 仏子村 野田村



どんなところ？ぼくのまち



No. 16 入間市の学校（2）



いるましりつとしょかん
—入間市立図書館—
きょうりよく いるましはくぶつかん
協力・入間市博物館

—歴史（寺子屋から戦後まで）—



〇学校ができる以前…江戸時代、武士の子どもは「藩校」とよばれる学校に通いましたが、庶民の子どもは「寺子屋」という塾のような所で勉強していました。

入学する年や通う期間もいろいろですが、この辺りでは9歳位から4～5年通ったようです。

- 江戸時代も中ごろになると、人々の生活にゆとりが生まれてきたこと。
- 読み書きなどができると、給料の高い職業に付くことができ、よりよい生活ができるという風潮。

寺子屋の数は、江戸時代の中ごろから終わりにかけて、どんどん増えて、都会だけではなく、地方の町や村にも広がっていきました。

明治5年
(1872年)



昔は、ノートやえんぴつが少なかったので、「石板」



川は黒ばんのようなものに、ろうそくなどで字をかいて勉強しました。

明治17年
(1884年)

明治19年
(1886年)



明治政府により「学制」が定められ、各地に学校ができる。

この制度は義務教育の理念を初めて表したもので、日本の近代教育のスタートとされています。

明治6年、入間県（当時、入間市が属していた県）では寺子屋教育を廃止し、募金で学校を設立すること、という方針を出しました。

しかし、実際には、子どもが家の手伝いをしていたり、学校の月謝が払えなかったりして、就学率（学校へ行っている子の割合）は、明治6年で28%ぐらいでした。（男の子 39.9%、女の子 15.1%）

このころの学校は、村の人たちの募金で建てることとされていたので、なかなか新しい建物をつくることができず、昔からあったお寺や民家を教室にしていました。

埼玉県内の647校のうち、516校はお寺を使っていました。（明治9年）

明治10年の宮寺小学校の校則

- 授業時間は午前9時～午後3時（夏は午前7時～12時）の60分授業。
- 夏休みは5/21～6/9（お茶づくりや養蚕業の忙しい時期に合わせ）冬休みは12/26～1/7
- 毎月・月の始めの日から入学できる。

「連合戸長役場制度」ができる。各町村の役場を廃止して、平均5市町村が連合して、一つの役場を置く制度。

「小学校令」が公布され、小学校は「尋常小学校」と「高等小学校」とに分けられる。

- 尋常小学校（4か年）[義務教育]
- 「修身」(道徳についての授業)、「読書」、「作文」、「習字」、「算術」、「体操」、その他「図画」や「唱歌」などといった科目の勉強をしました。
- 高等小学校（4か年）新たに「歴史」と「理科」が加わる。

高等小学校とは・・・尋常小学校を卒業したあと勉強を続けたい人が進学する学校。入間市には当時、黒須に1校あるだけだったので、入間市・狭山市域など広範囲から生徒が通っていた。

入間市 寺子屋事情

現在の埼玉県の地域内には1462か所、そのうち入間市域には53か所の寺子屋があったことがわかっています。

Q. 入間市に最初に寺子屋を開いたお師匠さんは？

高倉村の田代秀祐さん…高倉村・扇町屋村・黒須村・小谷田村・仏子村などから子どもが通っていました。

二本木村の笹川柳白さん…越後（今の新潟県）出身の人。近くの人たちが100人以上通っていました。

※師匠の名前などは筆子墓碑（生徒たちが建てた師匠のお墓）などから知ることができます。

入間市域でも1830年代以降、寺子屋の数が増えていきました。（明治5年の「学制」発布により学校がつくられるようになると、寺子屋は、しだいに姿を消していきます。）

めいじ ねん
明治21年
(1888年)

ちょうそんせい こうふ れんごう ちちょうやくばせいど はいし ちょうそんがっぺい あたら
「町村制」の公布。「連合戸長役場制度」は廃止され、町村合併により新
しい町村が成立する。これにより、藤沢村、豊岡町、東金子村、金子村、
もとさやまむら みやでらむら もとかじむら
元狭山村、宮寺村、元加治村、ができる。

めいじ ねん
明治23年
(1890年)

とし きょういくちやくこ きょういく ほうしん しめ はんえい
この年、「教育勅語」(教育についての方針を示したもの)と、それを反映
した内容の、新しい「小学校令」が出される。
てんのう ちゆうせい つ くに あい どうとくきょういく きょういく いちばん
(「天皇に忠誠を尽くして国を愛する」という『道徳教育』が教育の一番
もくてき
の目的となりました。)

めいじ ねん
明治33年
(1900年)

じんじょうしょうがっこう ねんかん ぎ む きょういく きかん じゅぎょうりょう むりょう
尋常小学校4年間(義務教育の期間)の授業料が無料になる。



けっか しゅうがくりつ がっこう い こ
その結果、就学率(学校へ行く子ども
わりあい あ
の割合)が上がる!

	ぜんこく 全国	さいたまけん 埼玉県
めいじ ねん 明治29年	64.2%	55.7%
↓	↓	↓
めいじ ねん 明治34年	88.0%	95.7%

めいじじだい おわ
明治時代の終りごろには、
ほとんどの子どもが学校へ行っており、
ぎ む きょういく せいど かた
義務教育の制度が固まりました。



めいじ ねんだい
明治30年代ごろから
かくち しょうがっこう こうとう
各地の小学校で、高等
しょうがっこう せっち
小学校をあわせて設置
するようになり、名前も
じんじょうこうとうしょうがっこう
「尋常高等小学校」と
なりました。

めいじ ねん
明治40年
(1907年)

しょうがっこうれい かいてい
「小学校令」を改定して、
じんじょうしょうがっこう がくねん ねん ねん } それぞれ
• 尋常小学校の学年を4か年から6か年に
こうとうしょうがっこう がくねん ねん ねん } へんこう
• 高等小学校の学年を4か年から2か年に
変更しました。

これにより、義務教育の期間は6年間となりました。

しょうわ はい
昭和に、入ると

にっぽん かみ てんのう しんこく くに かんが かた がっこう
「日本は神である天皇がおさめる神国である」という、国の考え方が学校
きょういくないよう えいきょう
の教育内容にも影響をあたえるようになる。それにより、
ほうあんてん てんのう しょうぞうしゃしん きょういくちやくこ い たてもの がっこう なか いっばんたいせつ
①奉安殿(天皇の肖像写真と教育勅語を入れた建物。学校の中で一番大切
ばしょ
な場所とされた。)



にのみやきんじろう そう たきぎ せ お ほん よ すがた しょうがっこう みなら
②二宮金次郎の像(薪を背負って本を読む姿)をしている。小学校の見習
うべきお手本とされた。)
この2つのものが、しょうがっこう お
小学校にだんだん置かれるようになっていった。

しょうわ ねん
昭和16年
(1941年)

こくみんがっこうれい しょうがっこう こくみんがっこう なまえ か
「国民学校令」により、小学校は「国民学校」と名前を変える。
しょうとうか ねん こうとうか ねん ねんせい
(初等科6か年・高等科2か年の8年制)
しょうわ ねん にっちゅうせんそう はじ こくみん がいこく せんそう
昭和12年に日中戦争が始まり、国民すべてをあげて外国との戦争にあた
るため、授業の内容も見直され、団体訓練や精神教育に重点がおかれる
ようになった。

しょうわ ねん
昭和22年
(1947年)

しょうわ ねん たいへいようせんそうしゅうせんあと くに せいさく か きょういくほうしん
昭和20年にアジア・太平洋戦争終戦後、国の政策が変わり、教育方針も
こくみん いけん き
国民みんなの意見で決めることとされた。

きょういくきほんほう がっこうきょういくほう せいてい
そのため「教育基本法」と「学校教育法」が制定された。これにより、
こくみんがっこうしょうとうか しょうがっこう ねん なまえ か ねん
国民学校初等科→「小学校」(6か年) } と、名前を変え、この9か年が
こくみんがっこうこうとうか ちゅうがっこう ねん } ぎ む きょういく ろく さんせい
国民学校高等科→「中学校」(3か年) } 義務教育となった。(六・三制)
はいせん こんらん こうはい なか じゅんびきかん みじか こうしゅ せんせい じょうけん
敗戦による混乱や荒廃の中、準備期間も短くて、校舎や先生などの条件が
ととの あたら がっこうせいど
整わないうちの新しい学校制度のスタートでした。

しょうわ ねんだい
昭和40年代

とし か じんこう きゅうぞう あたら がっこう つぎつぎ たんじょう
都市化による人口の急増で、新しい学校が次々と誕生する。

しょうわ ねん
昭和31年

むさしまち
武蔵町ができる。

しょうわ ねん
昭和41年

いるまし
入間市ができる。

せんそう
戦争のときにはいろいろな歴史が隠されていたのだ。
このようにして、今みんなが通っている学校になったのです!



No15・16の参考資料

「入間市史」(通史編・近代資料編I) 「入間市史」(昭和56年刊・社会科副読本)
「入間市のあゆみ」 「宮寺小史」 「瑞穂町史」 「埼玉県教育史」 「金子中学校創立50周年記念誌」
「史誌一西武中学校50年の歩み」 「歩み一武蔵中学校開校30周年記念誌」 「藤沢中学校創立50周年記念誌」
「豊岡小学校開校百周年記念誌」 「藤沢小学校開校百周年記念誌」 「東金子小学校開校百周年記念誌」
「宮寺小学校開校百周年記念誌」 「道一狭山小学校開校30周年記念誌」 「西武小学校開校110周年記念誌」
「町村物語」(入間市文化財同好会) 「豊岡町史」 「学校沿革史」 「関説埼玉県の歴史」(河出書房新社)
「朝日百科日本の歴史」(朝日新聞社) 「関説学習日本の歴史」(旺文社)

昔の学校の様子については、
「学校のうつりかわり」(岩崎書房) 「みんなの学校・昔と今」(小峰書房)
「学校と子どもの生活100年」(PHP研究所) 「写真と作文でつづる昭和の子どもたち」(学習研究社)
などの本に、写真や図が載っています。
ひょう さくせい ひるましろうし せ わ かんしゅ もう あ
表の作成にあたっては、昼間昭三氏にお世話になりました。感謝を申し上げます。

どんなところ？ぼくのまち

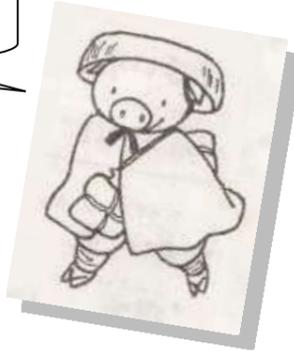
No. 17 「新編武蔵風土記稿」にみる

江戸時代の入間（1）



いるましりつとしょかん
—入間市立図書館—
きょうりょく いるまはくぶつかん
協力・入間市博物館

むさし ちめい
「武蔵」はこのあたりのむかしの地名だよ。



「新編武蔵風土記稿」とは？

江戸時代に、「武蔵の国」（現在の東京都と埼玉県のあたり）の地理などについて、幕府がまとめた本。

江戸の昌平坂学問所で大学頭 林 衡（述斎）のもと、文化7年（1810）より文政11年

（1828）までの間にまとめられ、天保元年（1830）に本が完成した。全部で266巻。

武蔵の国のすべての町や村について書かれているので、江戸時代のころのようすを知るための貴重な資料となっています。

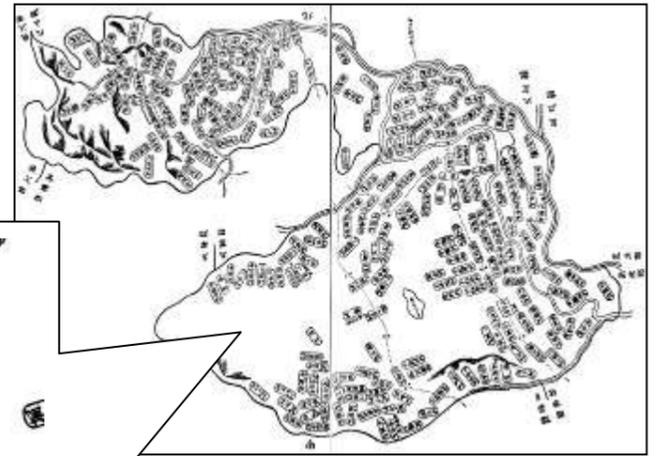
その中で、入間市域の村々はどのように書かれているのでしょうか？

- どの村も水田は少なく、陸稲（おかぼ）が農業の中心。
- 宮寺や藤沢村には年不取川【不老川】が、木蓮寺村から黒須村までのあいだの村々には桂川【霞川】が流れている。

★ 記事のなかからえらんでのせました。原則として説明は原文の内容をわかりやすくまとめ、現在の名前や、現在わかっていることには【 】をつけました。

★ 参考資料はNo.19にまとめてのせます。

【入間郡】



「新編武蔵風土記稿 卷之百五十六・入間郡之一 元禄年中改定図」より拡大図の左上に木蓮寺村から黒須村まであります。拡大図左下では富士山村から藤沢村まで確認することができます。藤沢村は、実際よりかなり所澤村に近く記されています。

藤沢村【**現**上藤沢・下藤沢・東藤沢】

- 土地の人がいうには、むかしは「上藤沢」・「中藤沢」・「下藤沢」の3つの村であったという。
- 民家の数は、上藤沢30戸あまり、中藤沢38戸、下藤沢100戸あまり。

主な旧跡いつたえ

入間野…「建久4年（1193）に、源頼朝（鎌倉幕府をひらいて征夷大將軍となった人）

の追鳥狩がおこなわれた『入間野』（『吾妻鏡』による）とはこのあたりのこと。

【**現**下藤沢～入曾あたり】むかしは二本木から扇町屋までつづく広野だった。

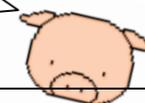
神明社【**現**上藤沢・神明神社】…上・中藤沢の鎮守

熊野社【**現**下藤沢・熊野神社】…村の鎮守

不動院【**現**下藤沢】…新義真言宗、本尊は不動明王

「鎮守」とは？

とくべつにその土地を守ってくれる神さまのこと。



おうぎまちやむら おうぎまちや くほいなり おうぎだい
扇町屋村【現 扇町屋、久保稻荷、扇台】

• 「扇町屋」の名前は村にある愛宕神社の御神体が5本骨の扇であるためについた名前だといわれている。

• 八王子から日光へむかう道すじ【日光脇往還】にあたり【**現 町屋通り**】、ここは馬を交換するところとなっている。

（次の交換の場所は高麗郡根岸村【**現 狭山市根岸**】）

• また、青梅から川越城下へむかう道も2つあり、これらも扇町屋の宿の前後で日光街道【日光脇往還】と合流する。

• 町は長さ6町（約648メートル）ぐらい、道はばは8間（約14.4メートル）通りの両側には民家が軒をつらねている。

民家の数は90戸

• 3と8のつく日（3・8・13・18・23・28日）には市がたち、穀物などの売買がおこなわれていた。



1か月に6回ひらかれたので「六斎市」とよばれていました。

主な旧跡いつたえ

愛宕権現新田大明神社【**現 愛宕神社**】

…祭神は愛宕権現、伊弉册尊、火産霊尊でその像を

5本骨の扇に描いたもの。

また新田大明神は新田義興の霊がまつられており、その御神体は甲冑をつけ馬にのった木像である。社伝によれば「矢口の渡しで討たれた義興とその家来の首はこの地でしらべられ、その首を埋めたところは「十三塚」として今も残っている。そのため義興の霊をこの神社でまつることになった」という。

『太平記』に「入間川の陣」とあり、ここが入間川

とも地理的に近いことから、社伝のとおりだと思われるが、ほかに証明するものはない。社の前に松と杉の古木があり、古めかしい神社である。

十三塚…新田明神社のうしろにあり、新田義興とともに

討死した家来の首をここにほおむったという。

長泉寺…曹洞宗、本尊は釈迦如来。

「新田義興」とは？

むろまちじだい なんぼくちょう そうらん
室町時代（南北朝の争乱のころ）の武将。新田義貞の子。矢口の渡し（東京都大田区）で討たれた。その首は入間川に陣をしいていた鎌倉公方足利基氏のもとに届けられ、その後この社にほおむられた。のちにいろいろなたたりがあつて、神としてまつられるようになったという。



金子郷

• 木蓮寺村から扇町屋村のあたりまでは「金子郷 桂庄八瀬里」と呼ばれていた。

• これらの村々の中を青梅道【青梅から扇町屋に通じる道、現在の「茶どころ通り」のあたり】と桂川【**現 霞川**】が貫いている。

木蓮寺【現 木蓮寺】

• 民家の数は76戸

• 村の名前は、村内の瑞泉院を、むかし金子十郎家忠の妻のおくり名にちなんで「木蓮院」あるいは「木蓮寺」と号したことからそれがのちに村の名となったという。

主な旧跡いつたえ

赤城明神社【**現 桂川神社**】…村の鎮守。

【大正4年に南峰の雷電社があわせてまつられるように

なったときに「桂川神社」と名があらためられた。】

瑞泉院…はじめは臨済宗であったが、いつの時代にか曹洞宗へあらためられた。

金子十郎家忠が開いた寺で、はじめはその妻のおくり名にちなんで「木蓮寺」という寺の名だったが、のちに金子十郎家忠のおくり名により「瑞泉院」とあらためられた。

「おくり名」とは？

人の死後に、その徳をたたえておくる名まえ。戒名のこと。

峰村【現 南峯】

• ここは地形が高く、阿須村【**現 飯能市阿須**】の方からながめると、山々の続く中に峰のように見えるのでこの名がついたのだという。

• 民家の数は70戸あまり。

• 村の中を南北に瀧山道（長沢峠をこえて阿須村へ通じる道）がとおる。戦国時代にここが瀧山城【**現 東京都八王子市**】と鉢形城【**現 寄居町**】を結ぶ道すじだったことの名ごりでそう呼ぶの

主な旧跡いつたえ

雷電社…【泉蔵院の上の山にあつたが、大正4年に木蓮寺の桂川神社に合祀された。】

泉蔵院…新義真言宗、本尊は不動明王。

ねぎしこやたむら
根岸小谷田村【**現**根岸】

• 民家の数は40戸あまり。

• 小谷田村に対し、ここは「根岸小谷田村」と呼ぶ。

おも きゅうせき い つた
主な旧跡・言い伝え

いなりしや いなりじんじや じんじや なかみむら みわじんじや むら ちんじゆ
稲荷社【**現**稲荷神社】…この神社と中神村の三輪神社が村の鎮守。

さんのおしや いなりじんじや うら
山王社 } 稲荷神社の裏にあった。
あたごしや めいじ ねん いなりじんじや ごうし
愛宕社 } 明治12年に、稲荷神社に合祀された。

こやたむら た こやたかんけいぜんいき
小谷田村【**現**その他の小谷田関係全域】

• 民家の数は120戸あまり。

• 扇町屋へ向かう「青梅道」の近くに、八王子から日光へ向かう道【日光脇往還】も通っている。

おも きゅうせき い つた
主な旧跡・言い伝え

かねこざか むら せいほく かねこじゅうろういえただ す な つ
金子坂…村の西北にある。金子十郎家忠が住んだところであるために、この名が付いたという。この坂の石を火打ち石として使えば火災にならないと地元の人はいう。

いるまがわ むら きた なが かわはば けん かわぎし
入間川…村の北を流れている。川幅は60～80間（108～144メートル）、川岸の「牛沢」の地では「龍の骨」が出るという噂がある。

しみず じゅうろうしみず うしざわ かねこじゅうろういえただ いくさ つか き みず もと
清水（十郎清水）…牛沢にある。金子十郎家忠が戦で疲れ、ここに来て水を求めたが、水がなかったので刀を抜いて地面に突き刺すとそこから清水が湧き出たという。今でも水は枯れず「十郎清水」と呼ばれている。

げんざい ちけい か
【現在では地形が変わり、なくなってしまいました。】

とうこうじ しんぎしんごんしゅう ほんぞん ぶどうみょうおう
東光寺…新義真言宗、本尊は不動明王。

ひかわしや ひかわじんじや むら ちんじゆ
氷川社【**現**氷川神社】…村の鎮守。

だいほんにやくう のち おおわかじんじや じゅうろくぜんしん めいじ ねん
大般若宮【後の「大若神社】】…十六善神をまつる。 } 明治40年、
さわごんげんしや のち さわじんじや ひかわじんじや ごうし
沢権現社【後の「沢神社】】 } 氷川神社に合祀された。

ぶどうどう べつとうみょうおう ほんぞん ぶどうみょうおう ぶどうみょうおう かねこじゅうろういえただ まも ほんぞん いえ
不動堂（別当明王寺）…本尊は不動明王。この不動明王は金子十郎家忠の守り本尊で、家忠が戦場で敵に囲まれたとき、この不動像に祈ったところ、危ないところを免れることができたという。【現在は明王寺の本尊となっている。】

あらくむら あらく
新久村【**現**新久】

• 民家の数は88戸あまり。

おも きゅうせき い つた
主な旧跡・言い伝え

てんのうしや やさかじんじや むら ちんじゆ
天王社【**現**八坂神社】…村の鎮守。

りゅうえんじ しんぎしんごんしゅう ほんぞん こくそうぼさつ
龍円寺…新義真言宗、本尊は虚空蔵菩薩。

かんのんどう かんのおんぞう た や ぶるいど
観音堂の観音像は「田谷」という所の古井戸から
みつかったものと伝えられている。

たかくらむら たかくら
高倉村【**現**高倉】

• 民家の数は86戸あまり。

おも きゅうせき い つた
主な旧跡・言い伝え

ひかわしや ひかわじんじや むら ちんじゆ
氷川社【**現**氷川神社】…村の鎮守。

はちまんしや むら ちんじゆ
八幡社…村の鎮守

ふじせんげんしや
富士浅間社

めいじ ねんひかわじんじや ごうし
【明治40年氷川神社に合祀された。】

こうそうじ そうとうしゅう ほんぞん あみだにらい げんざい しゃかにらい
高倉寺…曹洞宗、本尊阿弥陀如来。【現在は釈迦如来】

かんのんどう むかし しらこむら ほんのうしひがしがの ちょうねんじ
観音堂は昔、白子村【**現**飯能市東吾野】の長念寺より移したものだ。飛弾の匠が作ったといわれているお堂で、鳥の巣や蜘蛛の巣がかかることがないという。十一面観音をまつる。

げんぶん
※原文に
にいざくんしらこむら
「新座郡白子村」
とあるのは誤り

参考
資料

しんべんむさしふときこう あしだこれと こうてい ゆうざんかくしゅつぽん
「新編武蔵風土記稿」（蘆田伊人 校訂 雄山閣出版）

にほんしじてん とうきょうそうげんしや さいたま じんじや さいたまけんじんじやちやう
「日本史辞典」（東京創元社） 「埼玉の神社」（埼玉県神社庁）

「さやまのむかしばなし」（西沢順造 文 関東図書） 「広辞苑」（岩波書店）

いるましし つうしへん きんせいしりょうへん みんぞくぶんかざいへん
「入間市史<通史編>・<近世史料編>・<民俗文化財編>」

しほう いま つた ぶつぞう しんぞう
「市報いるまNo.690～788」 「今に伝わる仏像・神像」

いるましはくぶつかんじやうせつてんじすろく いるまし ぶんかざい
「入間市博物館常設展示図録」 「入間市の文化財」



どんなところ？ぼくのまち

No. 20 「新編武蔵風土記稿」にみる

江戸時代の入間 (4)



いるましりつとしょかん
—入間市立図書館—
きょうりょく いるまはくぶつかん
協力・入間市博物館



★ 記事のなかからえらんでここにのせました。原則として、説明は原文の内容をわかりやすくまとめ、現在の名前や現在わかっていることには【 】をつけました。

黒須村【**現**黒須地区】

- ここも桂庄に属し、八瀬の里とよぶ。
- 民家の数は 105戸。
- 八王子より日光へむかう街道【日光脇往還】がとおっている。扇町屋村よりはいいり、根岸村【**現**狭山市根岸】へと通じる。道幅は2～3間 (3.6～5.4メートル)
- また江戸と秩父をむすぶ街道【秩父甲州往還】もおとっている。所沢から中山村【**現**飯能市中山】へ通じる道で、ここは馬をとりかえる場所となっている。【**現**河原町交差点ふきん】

おち きゅうせき 主な旧跡いいたえ うえこや しもこや ちめい ばしょ じんこや
上小屋・下小屋…この地名の場所は、むかし陣小屋のあったあとだという。

だいしょうじん むら みなみ おうぎまちやむら
大将陣…村の南、扇町屋村とのさかいのあたり。

いるましえき とつぼう
【**現**入間市駅の東方のあたり】
むかし、戦の時、ここに大将の陣がおかれたと伝えられている。

げんこう ねん につたよしさだ かまくら
• 元弘3年(1333)、新田義貞が鎌倉をせめるさいに
いるまがわ じん
入間川に陣をおいたときのこと。

ぶんわ ねん こうあん ねん ねんかん
• 文和2年(1353)～康安2年(1362)までの9年間、
かまくらくぼう かまくらふ ちょうかん あしがちとうじ いるまがわ じん
鎌倉公方(鎌倉府の長官)である足利基氏が入間川に陣
をおいたときのこと。



※2つの説がある

いるましえきまえ ペペ
入間市駅前 PePeから、
まるひろ方面へ渡る歩道
橋は、「大將軍橋」と
なづけられています。

いるまがわ わた しよ
入間川の渡し…2か所ある。

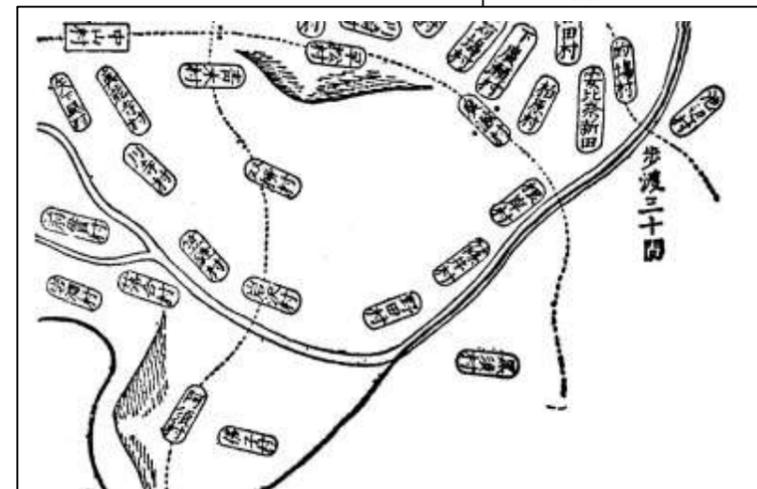
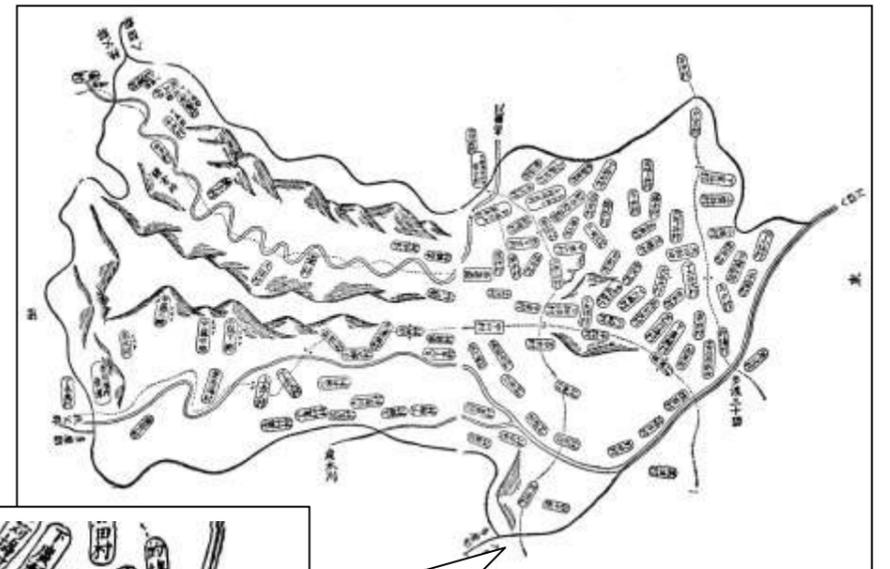


- (1) 日光道【日光脇往還】のかかるところで、北寄り。
【根岸の渡し場、現在の豊水橋のあたり】
 - (2) 秩父道【秩父甲州往還】のかかるところで、西寄り。
【笹井の渡し場、現在の笹井堰のあたり】
- どちらの渡し場も、冬になって水が少なくなると仮の橋を作って人々の通行を助けている。

かすがしゃ かすがじんしゃ むら ちんじゆ めいじじだい げんざいち いてん
春日社【**現**春日神社】…村の鎮守。【明治時代に現在地へ移転】
ひかわしゃ げんざい かすがじんしゃ ばしょ ひかわじんしゃ こうし おも
氷川社【現在の春日神社の場所にあり、氷川神社に合祀されたと思
われる。】

はくさんしゃ あたごしゃ いなりしゃ たいしょう ねん かすがじんしゃ こうし
白山社・愛宕社・稻荷社…【大正2年に春日神社に合祀された】
れんげいん しんぎしんごんしゅう ほんぞん ふどうみょうおう かんのだう ほんぞん せんじゆかんのん
蓮華院…新義真言宗、本尊は不動明王。 観音堂の本尊は千手観音。

こまぐん [高麗郡]



げんざい いるましふきん かくだい
現在の入間市付近を拡大しました。

しんべんむさしふときこう かの
「新編武蔵風土記稿 卷之
ひゃくななじゅうろく いるまぐんのいち
百七十六・入間郡之一
げんろくねんじゅうかいていす
元禄年中改定図」より
ぶしむら のだむら ころすむら
佛子村、野田村、黒須村を
かくにん
確認することができます。

ぶしむら ぶし
仏子村【現 仏子】

- いるまがわ なんがん いち
 ・入間川の南岸に位置する。
- かじりょう
 ・加治領。
- むら
 ・村ができたころは、民家の数は
 4戸（大久保・平岡・石井・宮岡
 という姓の家）だったが、だんだ
 んひらけて、80戸になった。
- めいさんひん
 ・名産品として「甲州丸」・「霜丸」
 という柿があり、江戸へ出荷して
 いる。
- いるまがわ はば
 ・入間川は幅18メートル（川原は
 180～540メートル）、川ぞいに
 126メートルほどの土堤が村の人の手
 でつくられている。



あす がけ ぶしむら にし がけ あすむら
阿須の崖 仏子村の西のさかいは、この崖で阿須村
【現 飯能市阿須】とへだてられていました。
 たいしょうじだいまつき しょうわ こうじ
 大正時代末期から昭和にかけて工事がおこなわ
 れ、現在のようにきりとおし道ができました。

おも きゅうせき
主な旧跡いいつたえ かねこざか
 金子坂…「金子伊豆守親範が、仏子に高正寺をひらいたため金子氏の
 す かねこざか おうぶく さか とお な
 住む金子郷との往復にこの坂を通ったためについた名である」
 とち ひと
 と土地の人はいうけれど、ここは「金子」という姓の人の領地
 な
 なのでその名がしぜんについたのではないかと思われる。

めいじ たいしょう しょうわ かいしゅう
 明治・大正・昭和と改修され
 て、今の道すじになりました。

いし かねこざか で いし
 ひうち石…金子坂から出る石は、みなひうち石になる。

じゃぶんせき いるまがわ かわざし で かせき だいじや
 蛇糞石…入間川の川岸から出る化石。むかし、このあたりに大蛇がかく
 れすみ、人々をなやませていたという。それを「牛沢」という
 せい ひと たいじ つた ひがし ほうかく
 姓の人が退治したといい伝えられている。ここより東の方角
 うしざわ ちゆめい ひと す きんねん
 にある「牛沢」という地名はその人が住んでいたところで、近年
 へび ほね で
 まで蛇の骨が出てきたという。

こうしょうじ かねこい すのかみちかのり かねこじゅうろういえただ おとうと てら
 高正寺…金子伊豆守親範（金子十郎家忠の弟）がひらいた寺。
 かねこじゅうろういえただ いちぞく いはいいっき
 金子十郎家忠をはじめとする一族の位牌一基がおさめら
 れている。曹洞宗、本尊は虚空蔵菩薩。

てんのうしや やさかじんじや むら ちんじゆ たいしょう ねんげんざいち いてん
 天王社【現 八坂神社】…村の鎮守。【大正12年現在地に移転した】
 しらひげしや だいろくてんしや すわしや むら ちんじゆ
 白髭社、第六天社、諏訪社…村の鎮守。
 めいじ ねん やさかじんじや こうし
 【明治41年、八坂神社に合祀された。】

「蛇糞石」とは？
 大むかし、貝や
 かにむかしの
 すんでいた穴に
 たまった土が、
 化石となったもの。
 別名「サンドパイプ」
 ともいう。
 いろいろな
 がたちもしています。
 だから こんな名まえが
 ついたんだね…

のだむら のだ
野田村【現 野田】

- とち むら みなみ いるまがわ
 ・土地はたいらで、村の南は入間川にむかっただっている。
- みんか かす こ むら さんざい
 ・民家の数は140戸、村のところどころに散在している。
- ためい ちい みず なが ようすい つか
 ・溜井や小さな水の流を用水として使っている。
- おも きゅうせき
主な旧跡いいつたえ しらひげしや しらひげじんじや むら ちんじゆ
 白髭社【現 白髭神社】…村の鎮守。
- ちやうがんとくじ ちゆうとくじ そうとうしゅう ほんぞん しょうかんのん ぎょうき さく
 長眼徳寺【現 長徳寺】…曹洞宗、本尊は聖観音で行基の作と
 つた
 伝えられる。
- えんしょうじ しんぎしんごんしゅう ほんぞん あみだにょらい ぎょうき さく
 円照寺…新義真言宗、本尊は阿弥陀如来で、行基の作と
 つた
 伝えられる。
- ほんどう
 本堂のうしろに古い板碑がある。長さ4～5尺（1.2
 ～1.5メートル）もしくは、5～6尺（1.5～1.8メー
 トル）で、加治氏の墓ではないかとい伝えられている。
 【これらの板碑のうち6枚は「国指定重要文化財」とな
 っていて、現在は収蔵庫におさめされています。加治氏の
 くよう
 供養のためにたてられたものです。】

かじ
加治とは？
 むさしちとう
 武蔵七党のひとつ、
 たんとう ぞく しそん
 「丹党」に属する。（子孫）
 いるまぐん かじ ち す
 入間郡加治の地に住み、
 かじし な
 「加治氏」を名のった。
 えんしょうじ かじし ほだいじ
 円照寺は加治氏の菩提寺
 だった。

つきしんでん のだ
築地新田【現 野田】

- とち
 ・土地はたいら。
- みんか かす こ
 ・民家の数は3戸。
 【この村は、明治12年（1879）に野田村に合併しました。】

とおいむかしのできごとやくらしのようすを知るてがかりは、
 みちか ちゆめい ぶんかざい なか のこ
 じつは身近な地名やいいつたえ、文化財などの中に残されてい
 るんだね！

